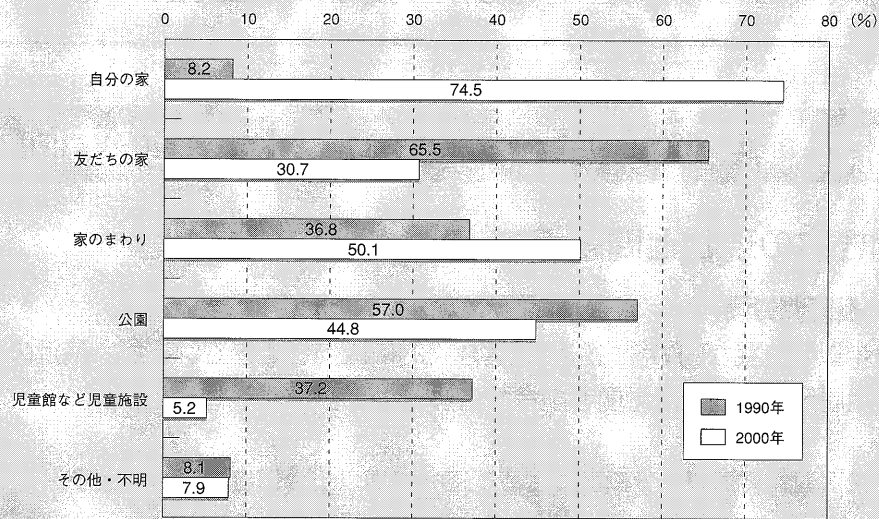


ちを支援する仕組みを整えていくことが重要である。

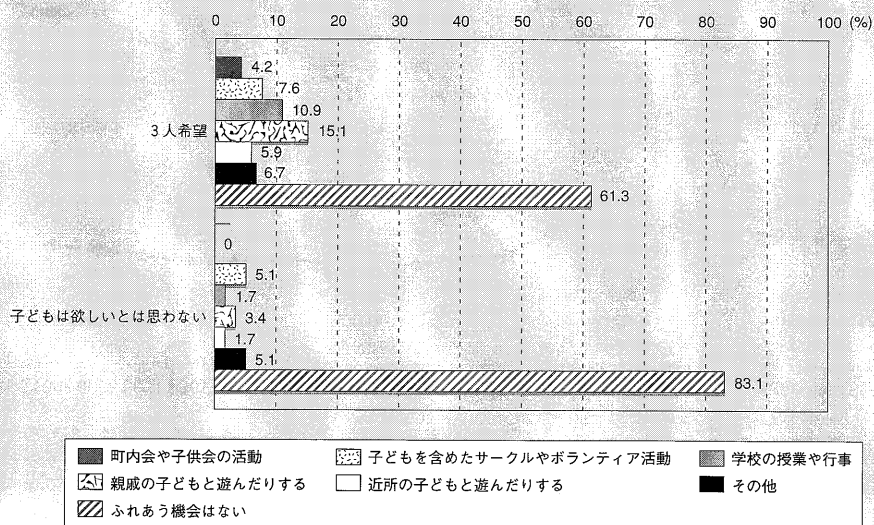
- 「小さな子どもとふれあう機会はない」とする中高生は66%に上る。図表2-2-14をみるとこうした小さな子どもとの「ふれあい」のなさが将来子供を持つことへの実感を薄れさせ、家族を形成することに消極的な意識を強めていることがうかがえる。早い時期から幼い子どもと親しむ機会づくりなどを通じ、未来の「親」を育てる取り組みを推進していくことが重要である。
- 子育て期の親はもっとも労働時間が長い世代に属しており、家族と食事を共にすることもままならないなど、仕事と生活のバランスを欠いた働き方をしている親たちも多い。子どもの生活時間の夜型化や生活習慣の乱れの背景の一つにはこうした親たちの働き方もあることがうかがわれる。

図表2-2-9 いつも遊ぶ場所



資料：(社) 日本小児保健協会「幼児健康度調査」

図表2-2-14 欲しい子どもの人数別小さな子どもとふれあう機会の有無 (複数回答)



資料：(株) UFJ総合研究所「子育て支援等に関する調査」(厚生労働省委託2003年)